

# 自ら学ぶ姿勢がつく フォニックスと英語の多読

文字と音の基本的な対応関係を学ぶのに最適なツールはフォニックス。第2外国語として英語を学ぶ際、この対応関係(フォニックス)を意識することによって英語への理解が飛躍的に伸びます。アークアカデミーでは、赤ちゃん、未就園児クラスからフォニックスを導入していますが、この年齢のお子さんには感覚的に英語は英語の音があるという事をつかんでもらうのが目的。そして、幼稚園年長くらいになると、文字と音の基本的な対応を整理する能力が伸びてきますので、今まで感覚的に身につけていた「音」を「文字」として置き換えることができるようになります。この作業が分かり始めると、子供の英語学習へのモチベーションが飛躍的に伸び始めます。発音も良くなるし、発音がよくなると聴き取りの力も伸びます。また読める・書けるという能力は、子供が自立的・自律的に学習できるための強い味方となることでしょう。

そしてある程度「英語の音」の貯蓄と「フォニックスの基礎」があれば、読む練習をすることによって英語の実力を伸ばしていきましょう。大量に読むことによって、英語をかたまり=パターンとして身に付ける事ができます。たとえば、「How are you? はHow は疑問副詞で、疑問形の場合はBe 動詞が主語(you)の前にくる」なんていちいち区切って考えなくても「かたまり」として理解できますよね。大量に英語を読む・聞く事によって、長い文でも英語をかたまりとして理解できるようになります。そしてただ目で読むだけでなく、声に出して読むと効果は格段に上がります。特に、音声が入ってきてると同時に、それを真似して口に出す「シャドーイング」は英語学習の最強のツールです。「英語で多読クラブ」で利用しているアプリは、映像・音声と一緒にあっており、まさに理想的な英語学習法です。なぜかという、語学力とは、特定の「状況や概念」と「言葉(語彙・文法)との関係を自分の中に溜め込み、それを組み替えて表現する能力なので、

- ① 一定の「状況」を目でみながら。
- ② 変化する「音」を耳で聴き、
- ③ 同時に発音を「口」で行う

この三つを同時に行う事ができるとも優れたアプリだからです。このアプリを利用し多読を毎日している生徒さんは驚くほど実力を伸ばしています。我が家の6歳の長女も今年の4月からこの多読アプリで英語の音読に挑戦していますが、最近では中学生の英語の教科書をゆっくりですが読めるようになり、「継続は力なり」という言葉をかみしめています。英語は毎日コツコツと勉強すれば必ず身につくものです。フォニックス学習や「英語で多読クラス」は、子供が自ら学習できる力を伸ばしていく優れたツールだと確信しています。

日本では英語のテストにおいても明確な正解や規範解答が用意されているので、たいてはこれを暗記さえすれば大学に合格できます。「英語の実力」=「ペーパーテストの結果」という考えがまだ主流ですが、こうした小手先の学習では本当の英語の実力は残念ながら身に付きません。多大な時間を受験英語に費やしたにも関わらず、英語の実力が身につけていない、と感じられている方は多いのではないのでしょうか？

2020年の教育改革によって、やっと英語の能力も「4技能」で計れるようになります(今までは読む・聞くの2技能のみ)。英語学習の環境がどのように変化しても振り回されない本当に実力を子供達が身に付けることができるよう、サポートさせていただきたいと思っています。

# 最新情報・お知らせ

●《重要》翌月からの各種変更(休会・退会など)の手続きの届出締切日は20日までです。お間違いないようお願い致します。一部欠席された場合、あるいは20日までに休会・退会のご連絡がなかった場合、特別な理由を除き後からの払い戻しはできませんのでご了承ください。

●お礼 心のこもったクリスマスカード・年賀状など新年のお便りをありがとうございました。楽しく拝見させて頂きました。今年もスタッフ一同張り切って皆様に愛される学校へと成長していきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

●Flip Englishさんと主催したクリスマスパーティ。たくさんの方に参加していただき、本当にありがとうございました。いただいた参加費は必要経費以外すべて募金させていただきました。今年の募金先は、ケニアにあるアフリカ最大規模のスラム街、キベラスラムにあるマゴソスクール。このスクールには孤児、元ストリートチルドレン、虐待を受けた子どもたち、労働させられていた子どもたちなど、幼稚園から小学8年生までの約500人が通っています。

●新年度クラス時間割案は1月中にお渡しします。ご確認の上、新年度クラス申し込み用紙に、第2希望(あれば第3希望まで)までお書きの上、提出してください。スケジュールは調節中ですが、クラスによっては定員がすでにオーバーとなっています。会員歴が長い方、またご兄弟関係等を考慮させていただく形になると思いますが、保護者の方と相談しながらスケジュール作成を進めて行く予定です。

●フェイスブックをコミュニケーションツールとして活用しています。ぜひ「いいね！」で登録して下さい！いろんな情報を発信していきたいと思っています。

<https://www.facebook.com/ark.academy.sanda>

## ARK ACADEMY

アークアカデミー英会話教室

三田市あかしあ台4-8-1

Tel / Fax : 079-563-3132

Email: [info.ark.academy@gmail.com](mailto:info.ark.academy@gmail.com)

ホームページ「アークアカデミー英会話教室」で検索

フェイスブック: [www.facebook.com/ark.academy.sanda](https://www.facebook.com/ark.academy.sanda)

ツイッター: <https://twitter.com/ArkAcademy25>



# アークアカデミー通信

News Letter Jan 2018

Vol.87



## ★Contents★

- はじめに ■最新情報・お知らせ
- 今月の誕生日 ■自ら学ぶ姿勢がつく
- オープンクラスのお知らせ ■英語暗読大会
- 「教育改革」で英語はどう変わる？

Happy New Year!  
新年明けましておめでとうございます

*人は管理されている方が圧倒的に楽だ。だから人は無意識のうちに、自分の自由を差し出して管理される道に進もうとする。何をすべきか自分に問いかけ続けることは難しい。自由が難しい所以である。しかし、自分の夢に近づくためには自由である必要がある。-「知的資本論」*

2018年がいよいよスタートしましたね！！みなさんにとってもこの1年が、祝福と恵みに満ちたものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。上記の引用文は今年初めに会った言葉です。英語学習も「管理」ではなく、「自由」に学習できるものであるといいですね。

さて、私達は年末年始をアメリカで過ごしました。数日間のアメリカ滞在ではありましたが、とても良かったです。なんといっても「人」が素晴らしかったな～。昨年はアメリカからは残念なニュースが多く、いったいアメリカはどうなってんの？と思う事が多かったのですが、ソーシャルメディアやニュースから聞こえてくる声はほんの一部のアメリカで、実際に行って、見て、出あって、歩いて、笑って、考えて、そうした経験を通して初めてその国が見えてくるなど、改めて実感しています。最近では若者の海外旅行者や世界の僻地(?)を旅するバックパッカーが激減していると聞きます。不景気や円安も原因の一つだと思いますが、インターネットの影響も大きいようです。世界中の無限に溢れる情報を指先ひとつで手に入れるこの時代、自宅にいながら世界をワンクリックで理解できるように思ってしまうようになりました。でも現実にはSNSでは人間の読解力は追い付かないし、様々な環境で育った受け手の解釈に委ねられる当事者不在の世界がネット。経験のない知識は真実から遠いような気もします。SNSはとても便利なツールですが、まず、実際の経験や出会いを通して悩み、考え、挑戦し続けたいものですね！

# オープンクラス(参観日)のご案内

2月の第4週目(2月20日～)と第5週目(2月27日～)にオープンクラス(参観日)を開催する予定です。自由参加ですが、ご都合のつく方はぜひご参加ください。通常とは違うクラスの雰囲気の子供達も緊張し、いつもとは違う行動をとるかとは思いますが、温かく見守ってあげて

◆2月20日(火)～2月24日(土)  
スーパードラム



◆2月27日(火)～3月3日(土)  
スーパーキッズ・キッズクラス・スーパーフォニックス

- 下のお子さんや上のお子さんを連れてクラス参観をされる場合、クラスの進行の妨げにならないようお願いします。
- 当日は込み合いますので、あかし台教室にはお車以外でご来校ください。
- 学校近辺での路上駐車は近隣の方の迷惑となるので、ご遠慮下さい。(エルクプラザ・イオンモールなど2時間は駐車無料です。)
- 少数制クラスの詳細は後日お渡しします。クラスの前半20分、もしくは後半の20分を参観の時間とさせていただきます。

## 英語で多読クラブ主催



## 英語暗誦大会のお知らせ

昨年4月から始めました「英語で多読クラブ」、子供達は順調に英語の本を読み進め、着実に力をつけています。通常クラスですと2月の参観日に子供達の成長の様子を保護者の方に見ていただくのですが、多読クラブでは「英語暗誦大会」を実施し保護者の皆様にご覧いただく機会を設けようと考えています。子供達にとっても、アークアカデミーでも初めての試みとなりますが、少しでも多く人前で話す機会を持って欲しいという思いから、実施を企画いたしました。今回は多読クラブのメンバーのみの開催となりますが、多読クラブに興味がある方がいらっしゃいましたら参観可能です。お忙しいとは思いますが子供達の1年間の頑張りを是非間近でご覧ください

課題は学年により3グループに分け違う題材に取り組んでもらいます。3年生は歌、4～6年生は詩、中学生はケネディ大統領就任演説の1部に挑戦致します。

子供達にはとにかく楽しんで課題に取り組んでもらいたいと考えています。そして、その頑張りが必ず大きな自信につながると信じていますので、どうぞそんな子供達を温かい気持ちで応援してあげてください!

- 日時 2018年2月7日(水)18時45分～19時30分  
(通常クラス内での開催です)
- 場所 南ウッドタウン駅前校

## ARK ACADEMY'S Mission Statement

～アークアカデミーミッション～

To Love and Serve Our Community  
By Sharing Our Lives and Education



# 今月の



# Happy Birthday

- 1月5日
- 1月7日
- 1月7日
- 1月8日
- 1月9日
- 1月11日
- 1月11日
- 1月13日
- 1月14日
- 1月16日
- 1月18日
- 1月19日
- 1月21日
- 1月21日
- 1月22日
- 1月22日
- 1月23日
- 1月27日
- 1月28日
- 1月28日
- 1月29日
- 1月30日
- 1月31日

# おめでとうございます!

# 「教育改革」で英語はどう変わる?

2020年は東京オリンピックの年、日本の一大イベントですが、それよりもっと大事な事が始まる年でもあります。それが「教育改革」。「21世紀型教育」といった呼び方をされることもあるほどの大改革です。しかし、ベネッセコーポレーションが0～6歳の子供を持つ20～40代の保護者を対象に、「21世紀型教育」に関する意識調査をインターネットで行ったところ、「よく知っている」は11.6%だけで、約80%が「知らない」「聞いたことはあるけれど、詳細は知らない」という結果がでました。2020年まであとわずか2年。子供達を取り巻く学習環境の変化を知る事はとっても大事だと思いますので、「教育改革」のポイントを紹介させていただきます。

戦後最大規模といわれる教育改革もあと2年後に迫ってきました。文部科学省も今回は「本気」で取り組んでいるようです。2020年日本の教育は変わります。やっとな変わる!という希望もありますが、既存の教育制度しか知らない私達親の世代はむしろ不安の方が大きいかもしれませんね。

この教育改革の背景は、これまでの正解を見つけるトレーニング「詰め込みドリル教育」では、21世紀の社会を生き抜くために必要な、資質・能力が身につかない、ということが明らかになってきたためです。そのため、これからは正解のない問いを探究する「アクティブラーニング」と名付けられた教育へと転換すべく、準備が着々と進められているのです。ゴールが変わった以上、授業も生徒の評価軸も大きく変わっていくでしょう。英語教育においては、以前から言われ続けてきた「4技能重視」の流れは、新しい学習指導要領で一気に加速すると思います。文法知識だけで優秀な成績を取れたのは過去の話になり、本当の英語力がある子が正当に評価されるようになるはず。これはとてもよい傾向ではあるのだけれど、本当の英語力を指導できる教師が、現在の公立学校、また既存の塾でどれだけ配属されているかはかなり疑問です。

この教育改革の大きなポイントは

- ① 英語改革
- ② 大学入試改革

そしてこの英語教育改革のポイントは下記の4項目

- ① 小学3・4年生で「外国語活動」が開始
- ② 小学5・6年生で「英語(教科)」が導入
- ③ 中学・高校の英語授業は「英語で行うことを基本とする」
- ④ 大学入学共通テストで「4技能評価、民間資格・検定試験」の活用

高校卒業時に求められる英語力は求められる英語力はCEFRのA2～B1レベル以上を目指すということです(英検だと2級くらい)。

経済格差による教育格差はリアルな問題ではあると思いますが、日本の学校で粛々と勉強させとけばいいと思いついでいる家庭と、それじゃあ今後は通用しない人材になってしまうと理解できている家庭の格差の方がより深刻な問題になってくると思います。まずは何が教育界で起こっているのか知ること、それに対してどのように対応するかを考える事はとても大事だと思います。アークアカデミーでも、フェイスブックやニュースレター等を通して情報を発信していきたいと思っていますので、ぜひ今後ご参考ください。